

目的 近年男性のファッションに対する関心が高まってきている。本研究では若い男性の衣服に対する考え方や日常の生活行動を把握し、さらに学生と社会人との相違を検討することによって現代の若い男性にとって衣服が果たす社会や生活での役割、個人にとっての意味を明らかにすることを目的とした。

方法 名古屋市近辺に住む18～29歳の男子大学生 244名、社会人 163名の計 407名を対象に昭和62年5～6月、配票留置法によるアンケート調査を行った。調査内容は基本属性、衣生活全般にわたる意識と行動についてそれぞれ31項目、ファッション、美容、インテリア、レジャーなどの日常関心事について質問項目を設定した。これらを単純集計し、因子分析、正準相関分析、クラスター分析によって、若い男性の衣服に対する意識と行動の関連を検討した。さらにこれらの差異をもとに対象者をいくつかのグループに分類し、タイプ別の意識、行動特性を明らかにした。

結果 男性の衣服に対する意識と行動がどのような因子から構成されているかを因子分析結果より検討し、両者を比較すると学生は他者依存性が強く社会人は対人的外観を重視するという違いが見られたが行動面ではほぼ一致していた。意識と行動の関連をみると、学生の場合男性的魅力を重視するものは同時に経済性にも重きを置き、自己中心的な志向を持ちながら社会的な自己主張をしないという傾向が、一方社会人では自己中心的でないものは比較的流行には関心がなく、また男性的魅力に欠け他者を意識する者は同調性が強く没個性的であるという傾向が見られた。クラスター分析の結果、学生、社会人共に全体の8割以上を占めるグループが抽出され、それぞれによって若い男性の衣服に対する意識が代表される。